

ふっお疲れさん♡♡

ほら見てえ？こんなに出的たでえ♡

それじゃあ○○君のざーめん

いただきます♡



（れろっ♡れろん♡）
うわゝむっちや濃い♡
舌に絡みついてくるわ♡

犬山さんは僕に見せつけるように
口内のザーメンを舌に絡ませる。



ぐゅちゅっ♡ぐゅちゅっ♡
あかん♡ぷりぷりで
なかなか噛み切れへん♡

ぐゅちゅ♡ぐゅちゅ♡
ゼリーみたいになっとなし
よく噛まんと♡



ぐちゅぐちゅと音を立てながら
僕のザーメンをよく咀嚼したあと
犬山さんはそれを一気に飲み込んだ。

ク
ク
ク
ク
ク

んぐっ♡ぽんっ♡

ふう〜なんとか飲みこ…



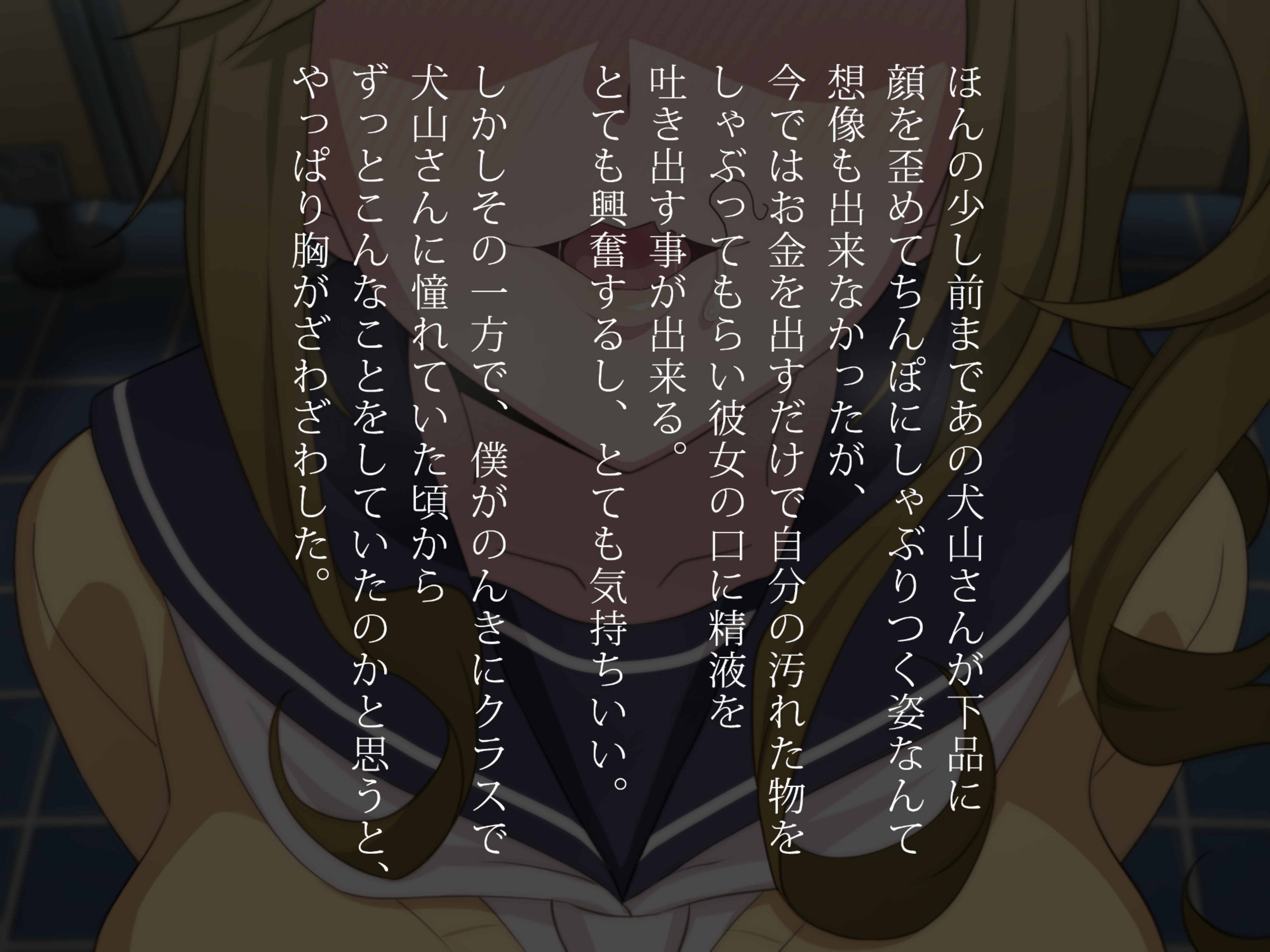
(げええっぱっ♡)



ふふっ♡○○君のザーメンむっちゃ
濃かったからげっぶがでてもうたあ♡
美味しいザーメンやったで
ごちそうさま♡

それじゃあいつも通り
また明日によろしくなあ♡



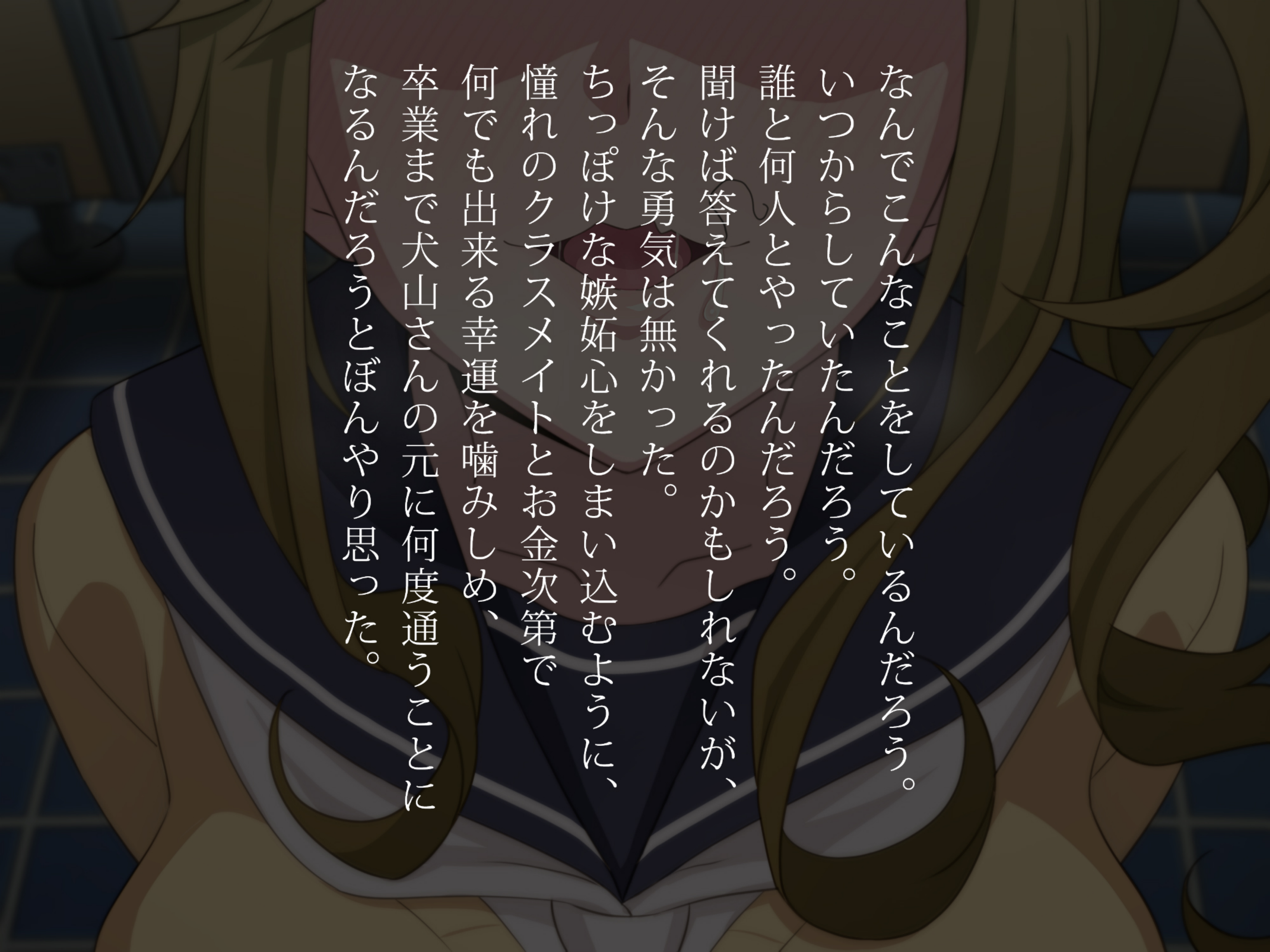


ほんの少し前まであの犬山さんが下品に
顔を歪めてちんぽにしゃぶりつく姿なんて
想像も出来なかったが、

今ではお金を出すだけで自分の汚れた物を
しゃぶってもらい彼女の口に精液を
吐き出す事が出来る。

とても興奮するし、とても気持ちいい。

しかしその一方で、僕がのんきにクラスで
犬山さんに憧れていた頃から
ずっとこんなことをしていたのかと思うと、
やっぱり胸がざわざわした。



なんでこんなことをしているんだろう。
いつからしていたんだろう。
誰と何人とやっただろう。
聞けば答えてくれるのかもしれないが、
そんな勇氣は無かった。
ちっぽけな嫉妬心をしまい込むように、
憧れのクラスメイトとお金次第で
何でも出来る幸運を噛みしめ、
卒業まで犬山さんの元に何度通うことにな
るんだろうとぼんやり思った。